

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年7月14日(土) 午後3時から4時30分まで 【2回目】平成30年7月25日(水) 午後6時から7時30分まで
場 所	豊浦中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】20人 【2回目】3人 計23人 (2) 事務局 【1回目】教育長 【2回目】教育部長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 豊浦小 348人(12) 豊浦中 184人(6) (20年後) 豊浦小 263人(12) 豊浦中 139人(6) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問) 近隣の十王中、日高中の生徒数推計を教えてください。</p> <p>(事務局) 十王中の10年後は325人、9学級。20年後は245人、9学級。 日高中の10年後は257人、9学級。20年後は194人、6学級。</p> <p>(質問) 豊浦小、豊浦中の教員数を教えてください。</p> <p>(事務局) 豊浦小26人、豊浦中22人。他に、必要に応じて生活指導員などが配置されている。</p> <p>(質問) 子どもが1歳である。学校の様子を教えてください。</p> <p>(事務局) 豊浦小の保護者の方で学校の様子をお話していただける方は？</p> <p>(意見) 個性的な指導をする先生はいるが、授業参観をしても特に変わったことはない。</p> <p>(意見) 宿題が毎日ある。1年生の時はベテランの先生で、漢字の採点など厳しかった。2年生の担任は若く、指導の仕方は緩い感じ。</p>	

（事務局）

ここ10年くらい、開かれた学校づくりということで、各学校が取り組んでいる。保護者や地域の方にボランティアで協力いただいたりしている。

一人ひとりに目が配れるように、学級に複数の教員が入る機会も増えてきた。あいさつマナー運動にも取り組んでいて、地域の方に進んであいさつできる子どもたちも増えてきた。放課後に地域の公園で遊ぶ姿は減っていて体力面で心配なところもある。不審者の心配などもあり、子どもたちの安全安心に取り組んでいる。

市内の学校は、落ち着いた雰囲気で行われている。

（教育長）

昨年3月末に文科省が新しい学習指導要領を出した。小学校では今年から道徳の授業、英語に親しむということで茨城県でも先行して行われている。学力面では、予測できない世界に子どもたちを送り出すことになるので、主体的に、周りの人たちと対話しながら、深い学びをしてほしいという願いのもとに、幼稚園から学校ごとに目当てが示されている。幼稚園から小学校、小学校から中学校など学校間の連携が円滑に進むように取り組んでいる。

現実には、子どもが少なくなって、遊ぶ場所、時間が少なくなって、子どもたちも先生も地域も忙しくなっている。学校に求められるものも多くなっている。いろいろな力を借りながら、共通理解をしながら進んでいこうとしているのが、今の学校の包括的な姿である。

（意見）

リーフレットはよくまとまっていると思う。チラシを見て、「再編」ということばに不安を持った。「再編」ということばから統廃合のイメージを持ち、学校が無くなってしまふのかと感じている人もいる。

常陸太田市は、7～8校あった学校が3校、北茨城市も統廃合され、行方市も大規模に統合された。県南地域や小美玉市などで統廃合されている。

今日の説明や市報の記事を読んで、日立市は10年間の中でいろいろな意見を吸い上げて再編を考えていこうと感じた。リーフレットには、「子どものための環境づくり」と銘打っている。単に、少なくなったから合わせるわけではないと感じた。

（意見・質問）

全体的な方針が気になって参加した。中学校は、人数が多い方がいいと思う。フレッシュな出会いがあり交じり合って学校生活を送ることが必要だと思う。

このままでは、小学校2学級、中学校2学級でそのまま上がっていく。どのような対応を考えているのか。

（教育長）

子どもたちの年齢が上がっていけば、社会性も身に付けていかなければならないし、合わないお友達でもやり過ごす力も付けていかなければならないかもしれない。「フレッシュな」ということだったが、この地区ではどうなのかということを知りたい。

（意見）

クラス替えをしたら、うまくなじめていない。同じクラスになりたくない子がいる場合もあるので、配慮してほしい。

（意見・質問）

柔道部は部員が3人しかいない。大会の時は、平日であっても親が送迎する。人数の多い部はバスで送迎する。基準があるなら教えてほしい。

自転車通学について。小学校から自転車通学が認められているところもある。福島市は、自転車の乗り方のテストを受けて合格すれば自転車通学できた。徒歩と自転車を選べた。部活動で帰りが遅くなれば迎えに行くが、自転車なら迎えに行かなくてもよい。

福島では声をかけるのが当たり前で、大人は子どもに声をかけずにいられない。子どもたちだけの活動が多く、上級生が下級生を（小学生を中学生が、中学生を高校生が）面倒を見ながら活動する様子を、大人が見守っている。茨城と福島では教育方針がずいぶん違うと感じた。

授業参観は見るだけで、親と先生が話す機会が少ない。もっと話がしたい。

（事務局）

部活動の送迎は、後援会費から支出していると思う。1年間を通した予算の中で消化していると思う。PTA総会などで決算承認をしていると思う。疑問に感じたら学校に聞いてみてほしい。

不審者情報は多い。周知が必要と感じるものを通知していた。子どもたちには避難訓練や対処方法を指導している。不審者情報の中には、地域の方が声掛けしても、受け取る側が不審者と受け取ったというものも含まれていると思う。福島では見守る体制ができていくことでうらやましいと思う。登下校での見守りは保護者や地域の方が協力してくれている。もっと広まるといいと感じた。

ご紹介いただいた上級生と下級生の関係を大人が見守る、小学生でも自転車通学を認めるなど、子どもの自立を促す取り組みとして素晴らしいと思う。当市では、小学校は自転車通学を認めていない。中学校については、学校長の判断で個別に許可をしている。市の支援としては、ヘルメットの購入補助をしている。

（教育長）

今回の懇談会でのご意見は、全て学校に返していく。子どもの自立を考えるときの一つの考え方として、また、実際の取り組み例として紹介しながら考える機会を作りたい。

校長室にはどんどん来ていただきたい。他の地区でも、保護者の方に寄っていただいとお茶を飲んだりするという校長もいる。跨いでしまえば敷居はそれほど高くないと思っている。

日立では学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に取り組んでいる。授業や専門的な判断以外の、生活に関わることなども学校が判断を求められることがある。そういった時に地域の皆さんと協議をしながら決めていくような体制を作っていく取組を行っている。学校自ら胸襟を開く試みをしていきたい。再編を考える中でも、一つの課題として考えていきたい。

（意見）

小学校で読み聞かせのボランティアをしているが、豊浦小は2年生までしかない。クラスでの子どもたちの様子が見られるよい機会だったが、回数が減ってしまい残念。

体調の悪い先生がおり、いたりいなくなったりすると子どもたちも落ち着かない様子だ。サポートの人がいればよいと思う。

(事務局)

学校の情報は、市教委に逐一上がってくる。日立市だけでなく、全国的に講師が減っている。豊浦小では療休の先生の補充ができていない。市内では、他校も含めて不足している。見つかり次第配置する。

読み聞かせボランティアは、ご協力いただいてありがたい。ぜひ続けてほしい。

(質問)

中学生のマナーが良いというのはいいことだと思う。全体に広がればいいと思う。

授業について行けない子へのサポート体制は、どのようになっているか。

いじめについて、現在の取組はどのようになっているか。

(事務局)

子どもがいじめられないかという保護者の心配な気持ちは理解できる。いじめについては、全国的に喫緊の課題として取り組んでいる。以前は、担任が抱えることで対応が遅れたりしていた。いじめはどこでも起こり得るものとして意識し、生活の様子をアンケートするなどして未然防止に努めている。学校全体で取り組む体制をとっている。

教員がいじめはないと思っていても、子どもがいじめられたと感じればいじめである。情報をキャッチしたら、まずは初期対応をとる。担任だけで抱えるのではなく学校全体で共有することになっている。

心配なことがあって、担任に言いにくい場合は、学年主任や教頭、校長など話しやすい人に相談してほしい。学校に言いにくい場合は教育委員会へ伝えてほしい。教育委員会から学校へ伝えて、解決に向けて取り組んでいく。不登校も同様。

授業についていけない生徒については、可能な限り個別に対応している。

子どもたちの環境を整えていくのは我々の責任。そのようなことも含めての再編だと考えている。

(教育長)

すべての子どもが被害者、加害者、傍観者にならないことを掲げて取り組んでいる。教育職員の姿勢としては、積極的にいじめを認知し解決を図る。いじめは見ようとしなければ見えないので、早期発見に努める。解決に向けては、方針を決めて組織的に取り組む。未然防止として、いじめを生まない学級、学校づくりに取り組んでいる。

子どもがいじめと感じればいじめであることから、認知件数は一昨年から非常に増えている。認知もしているが、解決も早くなっている。いじめは決してなくなる。子ども自身にも対応する力をつけてほしいと考えている。坂本中のIBI活動(いじめ撲滅委員会)など、子どもたち自身が立ち上がって、いじめ撲滅活動をしている学校もある。誰にとっても楽しく過ごしやすい学校づくりに取り組んでいる。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(意見)

東海村から昨年転入。実家のある豊浦に戻った。

東海村には、子育てしやすいという口コミで集まってくる。村内のアパートに10年住めば、土地が安く買えて家が建てられるとあって、高いアパートの家賃を払って住んでい

た。インフルエンザやおたふくかぜの予防接種の助成が早かった。高齢者福祉の内容も充実していて、将来も安心して暮らせるので東海村に家を持ちたいと言っていた。保育料や就学援助も申請が簡単だった。日立は計算が細かく申請しにくい。

役場の職員も対応が優しかった。日立市では、忙しそうで職員に声がかげにくい。都市政策課に行ったとき、どうしてよいかわからず窓口で立っていても、なかなか来てくれなくて不愉快だった。役所は市の顔だと思う。

(教育部長)

まずは、そういうところからだと思う。

皆さんは、市の情報は、どのように得ているだろうか。

(意見・質問)

市報で見るのは子育ての情報が多い。メールやインターネットで見るときに、見たい項目を登録しておけばトップに出るようにしてあると見逃さずに済む。

1学級の人数は何人で編制しているのか。また、将来的には学級の人数を少なくする計画はあるか。

(事務局)

国の決まりがあって、小学1年生が35人、小学2年生から中学3年生までは40人で1学級としている。茨城県では、小学2年生までを35人で編制している。特例として、35人を超える学級が学年で3学級以上の場合、4学級にできる。市町村によっては自前で教員を雇い、学級の人数を少なくしているところもあるが、財政的には厳しいのが現状。40人学級と30人学級では、少ない方が一人一人に目が届く。

(意見)

豊浦小の6年生は、特例で3学級にできたのに先生がいないので3学級にできなかったと聞いている。

(事務局)

豊浦小の6年生は78人なので3学級にはできない。非常勤講師を学級に配置することができる。

実質35人以下になるように、36人以上の学級には非常勤講師を配置できるのが2学級まで。36-36-36の3学級になれば4学級にできる。41人になると20-21の2学級になる。学級の人数には幅がある。

(質問)

市内で学校を合併することになると思うが、候補はどこか。

(教育部長)

決まっていない。心配な学校はある。クラス替えができる規模は必要だと思っている。

数合わせだけでは考えない。学校の敷地や通学の安全性、コミュニティとの調整など考慮しなければならないことが多い。

複式学級は避けたいが、学校として残す必要があるとなれば残さざるを得ない。教育上は、同じ発達段階の子どもたち同士で学級を作りたい。

(意見)

自分の出身校（北海道）では、小学校でのクラス替えは2回（3年生、5年生の進級時）しかなかった。

(事務局)

毎年クラス替えしている。クラス替えのメリットがある。苦手な子がいる場合に離してやる配慮ができる。また、子どもはクラスの中で序列をつける。人間関係が固まってしまう。小学校は、いろいろな友達から刺激を受け、接することで社会的な成長を促す時期。同じ学級で過ごすことのメリットもあるだろうが、いろいろな経験をしてほしいと考えて、毎年クラス替えをしている。

一方で、同じ学級で過ごすことのデメリットもあると思う。（クラス替えをして）違う集団になれば、もっといろいろな経験ができるのに（同じ集団にいると）限られてしまう。子どもにとってもクラス替えは楽しいことだと思う。

クラス替えがなくて良かったと思ったことは何かあるか。

(意見)

仲良しの友達との絆は深まったと思うし、仲の良かった子と離れて寂しいと感じたことはあったと思う。反面、クラス替えで新しい友達ができて嬉しかった記憶もある。

クラス替えで担任の先生が替わり、身体的なことでいじめられたことを相談したら、クラスの中で取り上げてくれて、みんなと和解ができた。その先生と出会えて嬉しかった。

(事務局)

2つの小学校から1つの中学校に進学する場合もある。中学生は自分を変えたいという気持ちも持ち始める。違う小学校の子たちと出会えてよかった、いろいろなことが広がってよかったという子どもたちの声を聞いている。子どもの成長や発達段階を考えると、クラス替えは必要だと思う。

(質問)

統合になったとき、学校が遠くなったらスクールバスなどを検討しているか。

(教育部長)

安全が最優先なので、バスということも選択肢にはある。スクールバスなのか路線バスなのかもあるだろう。それもまだ、決まっていない。長い距離を歩かせる訳にはいかない。他市町村で、統合に伴ってスクールバスを走らせたなら、子どもたちが運動不足になってしまい、学校で走らせているということも聞く。安全が最優先だが、いろいろな要素を考えて最善の方法をとりたい。

(質問)

幼稚園が無償化されると聞いた。

(教育部長)

そのような話はできているが、まだ、決まっていないと思う。担当外なので、最新の情報は持っていない。

(意見)

豊浦のように、1小学校1中学校では友達が増えない。中学校は、複数の小学校から集

まるほうが部活なども増えて活躍の場が広がるし、社会性を育てるためにも人数は多いほうが良い。小学校のうちは先生に密に見てもらうためにも少なくともいいと思うが、中学校は社会性を重視していくのもいいと思う。

（ 教育部長 ）

豊浦町と日立市との合併は、昭和の大合併の最後だった。そういうこともあって、1小学校1中学校で残っている。

（ 意見 ）

豊浦は持ち家の人が多く、やんちゃな子どもも少なく落ち着いているので、豊浦を選ぶ人もいると聞いたことがある。

十王中が中央に建てられれば行きやすい。どちらかに寄せるのは遠い。

（ 教育部長 ）

それも選択肢だろう。学校敷地は広さが必要。家が建っている所は難しい。学校を合わせるのであれば建て替えざるを得ない。土地があれば、それも選択肢。

（ 事務局 ）

例えば、十王中と豊浦中の10年後で見ると、合わせて5クラス。10年前なら5クラスは中規模の学校、大きいところは7～8学級が当たり前だった。

通学しやすい適切な土地があれば、おもしろい提案だと思う。

十王中を見ても、山部小は極端に少ないので、ほぼ楕形小一十王中。1小学校1中学校の良い所もあるだろうが、違ったカラーと出会うことは子どもたちの社会性の発達を考えれば望ましい。解決しなければならない課題はあるだろうが検討してみたい。

（ 意見 ）

駅前に土地があれば。

楕形小は、グラウンドが狭すぎて大変らしい。運動会は全く見えない。

（ 事務局 ）

子どもの数に比べてグラウンドが狭いので、けがが多かった。グラウンドを使う曜日を制限したりしていた。

（ 質問 ）

豊浦小はプレハブだが、エアコンが効いて快適。新校舎になったら、教室にエアコンは付くのか。

（ 教育部長 ）

大規模改築を行った学校はエアコンをつけている。全校一斉にエアコンを付けるためには多額の予算が必要になるので、順番につけていく。

（ 意見 ）

小学6年生などは体も大きく、ぎゅうぎゅう詰めで狭い。先生の歩く場所もないほど。授業参観に行っても、後ろの人はあまり見えない。30人くらいがよい。

(意見)

子どもたちが伸び伸びと生活している。3学級くらいがちょうどよい。

中学校は、部活の幅が狭まることや社会性の発達などを考えれば人数が多いほうが良いので、十王中との合併はいいと思う。

児童クラブではおやつが出ないので、お腹が空いてしまう。高萩市の児童クラブではおやつがあると聞いた。

(意見)

日立の学童は時間が短い。東海村の学童保育では、7:30まで見てもらえた。川に釣りに行ったり近所のお祭りに行ったり、臨機応変に見てくれた。台風などで登校時間が遅れるときも預かってくれて、いつも通りに仕事に行けた。保育園の学童ではなく、村の学童に入れる人が多かった。

夏休みも外食したり、お店のお弁当を買って食べたりしていた。お金は少しかかっても、毎日お弁当を作らなくてもいいのは楽だった。映画やボーリングに連れて行ってもらったしていた。

(事務局)

日立の学童でも、市民プールや動物園、テレパーク、地域活動に参加したりしていた。毎日ではないがおやつも出る。

(意見)

働いている保護者は、6時半までに絶対に迎えに来るようにと言われると、「絶対は無理」と感じて保育園の学童に入れる。夏休みの朝も始まるのが遅い。そういうところも日立市を選べない理由になっている。

(事務局)

来年度には保育時間を7時まで延長できるように準備中である。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。